



2021年10月6日

各位

会社名 イオンフィナンシャルサービス株式会社
代表者名 代表取締役社長 藤田 健二
(コード番号 8570 東証第一部)
問合せ先 取締役常務執行役員 木坂 有朗
(TEL 03-5281-2027)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2021年4月9日に公表しました2022年2月期における連結業績予想を、下記の通り修正いたします。

1. 連結業績予想について

(1) 2022年2月期 通期連結業績予想 (2021年3月1日～2022年2月28日)

	営業収益 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する 当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回発表予想(A)	490,000 ～520,000	41,000 ～46,000	41,000 ～46,000	19,000 ～21,000	88.04 ～97.31
今回発表予想(B)	490,000 ～520,000	46,000 ～51,000	46,000 ～51,000	23,000 ～26,000	106.56 ～120.46
増減額(B - A)	—	5,000 ～5,000	5,000 ～5,000	4,000 ～5,000	
増減率(%)	—	10.9～12.2	10.9～12.2	21.1～23.8	
(ご参考) 前期実績 2021年2月期 通期	487,309	40,651	40,238	17,693	81.99

(2) 業績予想修正の背景

当社は、2022年2月期の通期連結業績予想につきまして、経済活動の回復を前提として、営業活動の活発化に伴う販売促進費や人件費等の増加のほか、債権残高の積み上がりに対する引当金の計上を見積もった上で業績予想を算出しておりました。

外部環境においては、第1四半期連結累計期間の半ばより、日本並びにタイやマレーシアを含む海外主要展開国において、新型コロナウイルス感染症の新規感染者数の急増に伴い経済活動が制限されました。その後も活動制限の対象地域拡大や厳格化が続く中、加盟店の営業休止や時間短縮営業の影響もあり、カードショッピングや個品割賦の取扱高、債権残高が伸び悩みました。一方で、デジタル化による利便性および生産性の向上に加え、審査の精緻化や債権回収の強化に取り組み、貸倒関連費用を中心に費用を抑制したことで、第2四半期累計期間の連結業績は当初想定を上回る水準となりました。また、足もとにおいては、新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が減少傾向で推移していることに加え、ワクチン接種の普及等により各国では消費の活性化の動きが見られていること

から、第3四半期以降の業績下振れリスクは限定的であると判断いたしました。

このような状況を踏まえ、通期の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益がいずれも当初想定を上回る見通しとなりましたので、今回、業績予想を上方修正いたします。

また、引き続き新型コロナウイルスの感染は見通し不透明感が払拭されない状況であることから、2022年2月期連結業績予想についてはレンジ形式にて開示するとともに、業績予想の見直しが必要と判断した場合は、速やかに開示いたします。

上記に記載した業績予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、国内外の景気動向に加え、未だに新型コロナウイルス感染症の収束時期を断定することができないこと等さまざまな要因により、異なる結果となる場合があります。

以 上